

第 19 回宇宙開発委員会（定例会議）

議 事 次 第

1. 日 時 昭和 53 年 9 月 13 日（水）
午後 2 時～ 4 時
2. 場 所 宇宙開発委員会会議室
3. 議 題 (1) 実験用中容量静止通信衛星（C S）等 4 衛星の打上げ結果の評価について
（説明者 第四部会長 佐 貫 亦 男）
(2) リモートセンシング（遠隔探査技術）の研究・開発及び利用の推進に関する方策について
4. 資 料
委 19-1 第 18 回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨録
委 19-2 実験用中容量静止通信衛星（C S）等 4 衛星の打上げ結果の評価について（報告）
委 19-3 リモートセンシング（遠隔探査技術）の研究・開発及び利用の推進に関する方策について

委18-1

第18回宇宙開発委員会（定例会議） 議 事 要 旨（案）

1. 日 時 昭和53年8月30日（水）
午後2時～4時
2. 場 所 宇宙開発委員会会議室
3. 議 題 (1) 昭和54年度における宇宙開発関係経費の見積りについて
(2) 第二部会の審議について
(3) 第二部会の構成員の指名について
(4) 宇宙分野における日米合同調査計画について
4. 資 料
委18-1 第17回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨（案）
委18-2 昭和54年度における宇宙開発関係経費の見積りについて（案）
委18-3 スペースシャトル利用の推進及びH-Iロケットの開発に関する審議について（案）
委18-4 第二部会構成員
委18-5 宇宙分野における日米合同調査計画について（案）
5. 出 席 者

宇宙開発委員会委員長代理

“ 委員

“ “

“ “

関係省庁職員等

科学技術庁研究調整局長

網 島 毅

吉 識 雅 夫

八 藤 東 禧

斎 藤 成 文

園 山 重 道

通商産業省機械情報産業局次長

“ 工業技術院総務部長

運輸省大臣官房参事官

“ 気象庁総務部長

“ 海上保安庁総務部長

郵政省電波監理局審議官

建設省大臣官房技術参事官

郵政省電波監理局

宇宙開発事業団

事務局

科学技術庁研究調整局宇宙企画課長

“ “ 宇宙国際課長

“ “ 宇宙開発課長

杉 山 和 男

（代理：吉田）

服 部 典 徳

（ “ ：高橋）

西 村 康 雄

（ “ ：藤井）

相 良 英 明

（ “ ：山中）

沼 越 達 也

（ “ ：石井）

浜 田 望

（ “ ：飯田）

北 野 章

（ “ ：土肥）

九 里 茂

飯 塚 裕 久

堀 内 昭 雄

佐 藤 允 克

鈴 木 晃 他

6. 議事要旨

(1) 前回議事要旨

第17回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨が確認された。

(2) 昭和54年度における宇宙開発関係経費の見積りについて

事務局から資料委18-2に基づいて説明が行われ、以下の質疑応答が行われたのち、原案どおり決定された。

八藤：特別研究促進調整費によつて、宇宙を利用した材料製造実験に関する研究を行っているが、これは宇宙関連経費に含ま

れないのか。

事務局：特別研究促進調整費による研究は概算要求段階においては配分額が決められないため、宇宙関連経費に組み込んでいない。

(3) 第二部会の審議について

事務局から資料委 18-3 に基づいて説明が行われたのち、原案どおり決定された。

(4) 第二部会の構成員の指名について

熊谷委員長により資料委 18-4 のとおり第二部会の構成員が指名された旨、網島委員長代理から報告が行われた。

(5) 宇宙分野における日米合同調査計画について

事務局から資料委 18-5 に基づいて説明が行われたのち、以下の質疑応答が行われ、原案が一部修正されたのち了承された。

八藤：「米国提案に同意する」とあるが、NASA 側の当初の提案と会談の結果とは若干異つているので、原案の表現では意味が不明確とはならないか。

網島：「日米専門家会議を設立するという米国提案に同意する」のように修正してはどうか。

事務局：そのように修正する。

八藤：日本側提案等というのは米国側の提案に対する対案も含まれているのか。

事務局：含まれている。

八藤：公式回答はどのような形で行うのか。

事務局：熊谷大臣が 9 月に訪米する際、米国側に口頭で伝えることとしている。

また、その会談内容については、在米日本大使館からの公電により確認することとしている。